

実習を終えて

麗澤大学言語研究科日本語教育専攻の楊鎮深と申します。このたびは1ヶ月間にわたり教育実習をさせていただきましてありがとうございました。教育実習ということが私にとって初めてのことばかりで、少しでもたくさんのかんじようと思っているうちにまたたく間に実習期間が過ぎてしまいました。

実際に教育実習を体験して感じたことは、実習生とはいえ学生さんたちに対しては責任ある立場として接していかなければいけないという強い使命感と、私たちの言葉や態度のひとつひとつに学生さんたちが非常にかんじを抱いてくださっているという実感でした。

日本語を教えるということが目的ではなく、台湾の学生さんたちと接するということがひとつひとつ意味を持つような貴重な体験でした。元気よく挨拶してくれたり、明るい表情で声をかけてくれたり、いろんなところへ連れていってくれたりといった小さなことの積み重ねが大切であり、一生忘れないと思います。さらに、私は韓国終身で韓国人が日本語を教えるということが、みんなはどう受け止めているのかが心配でしたが、学生がみんな韓国に対して熱いかんじを寄せてくれるなかで、学生自身も一所懸命に勉強して上手になりたいという動機付けにもなったという話を聞き、胸に熱いものがこみあげてきたことが何度もありました。初めての教育実習が他ではなく屏東商業技術学院であってよかったと心から深く思っています。また、私の目指している職業は本当にやりがいのある仕事なのだと思えることができたこと、これが今回の屏東商業技術学院の実習で私が得た最大の収穫だと思っています。

慣れない実習で、いろいろと至らぬ点ばかりで申し訳ございませんが、みなさんのおかげでみなさんの心の温かさで感動し、屏東商業技術学院ひいては台湾のことが大好きになりました。また、今回、未熟な私たちを大変温かく指導してくださった陳先生にも、心から感謝しています。このたび、本当にお世話になりました。

屏東商業技術学院のみなさま、忘れられない思い出を作ってくださいまして本当にありがとうございました。屏東商業技術学院のみなさまのご活躍とご健闘をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

平成24年4月4日

麗澤大学言語研究科日本語教育専攻
楊 鎮深